

## 団体概要書

(その1)

団体名	特定非営利活動法人 こえとことばとこころの部屋	団体の種別 ※いずれかの□にチェックしてください。	<input type="checkbox"/> 公益社団法人
代表者の 役職・氏名	(ふりがな) やまだ かなよ 代表理事 山田 假奈代		<input type="checkbox"/> 公益財団法人 <input checked="" type="checkbox"/> NPO法人 ( <input type="checkbox"/> 認定NPO法人) <input type="checkbox"/> 非営利型法人 (公益法人へ移行予定)
主たる事務所の所在地	大阪市西成区太子 2-3-3		
設立年月	2004 年 10 月	構成員数	24
事業年度	6 月 1 日 から 5 月 31 日		
団体の活動目的	"こえ"と"ことば"と"こころ"をキーワードとした芸術活動の普及と人材育成を柱に、表現者や表現をとりまく仕組みと新たな経済モデルを实践し、いきいきとした市民生活への貢献とまちづくりの推進を図りながら、男女共同参画社会の形成と子ども健全育成を図り、表現活動を通じて平和の推進に寄与することを目的とする。		
活動分野	※下表の芸術文化の中から選択して記入してください。 14 その他の芸術文化		
主な活動内容	表現と交流の場としてのカフェ事業・ゲストハウス事業、釜ヶ崎芸術大学などのアーツマネジメント事業		
これまでの主な活動実績	<p>※ 具体的かつ直近の活動内容がわかるように記入してください。</p> <p>釜ヶ崎芸術大学を運営し、毎年美術館や芸術祭での展覧会を開催。</p> <p>毎月「まちかど保健室」「夜回り」など、地域での活動をつづける。</p> <p>2018 年：釜ヶ崎妖怪かるたを制作。大阪大学と協働。</p> <p>2019 年：延べ700人が参加し井戸掘りを実施。その際のクラウドファンディングで300万円達成。齋藤陽道さんと写真集を制作。</p> <p>2020 年：釜ヶ崎の生きる知恵と技シリーズ実施。大阪大学とのフードロスをテーマに「食べのこしノコッタ」共催。大阪弁護士会人権賞及び地球市民賞受賞。</p> <p>2021 年：大阪大学と「地域コンポスト」構想を開始。</p> <p>2022 年 2 月：大阪関西国際芸術祭参加。</p>		
ホームページ	有 (URL cocoroom.org)		
機関紙	有 (機関紙名 ぼえ犬通信)		

「活動分野」大阪市芸術文化振興条例第2条にて定義する芸術文化

- 1 音楽 2 演劇 3 舞踊 4 美術 5 写真 6 映像 7 文学 8 文楽 9 能楽 10 歌舞伎  
11 茶道 12 華道 13 書道 14 その他の芸術文化

## 寄附者へのPR等

(その2)

<p>貴団体における現在の課題</p>	<p>2003年の活動開始以来、多様な人々が行き交う「出会いと表現の場」としてのカフェ事業、2016年からはゲストハウス事業にも取り組んできましたが、ここ数年のコロナ禍において人の移動が制限され、カフェとゲストハウスの経営状態が急激に悪化しました。また、釜ヶ崎の街が開発の波に直面し、住んでいる人たちの高齢化にも拍車がかかり、大きな変化のさなかにあり、釜ヶ崎で活動を続けてきた私たちもまた、この街とこの街に暮らす人たちとの関わり合いにおいて、新しい舵取りを迫られています。運営継続のために、私たちがこれから進むべき方向へと決断し、行動に移していく中で、その中心力となる人材と資金の両方が、現場に不足していると感じています。</p>
<p>貴団体の将来展望 (何をめざしているのか、支援を受けて取り組みたいこと等)</p>	<p>誰もが学び合える場として街を大学に見た釜ヶ崎芸術大学を立ち上げてから10年間、西成区通称・釜ヶ崎を会場、及びテーマに、多様な人々(地域に暮らす生活保護受給者、野宿者、地域で働く人、市民、障がい者、若者、外国人、生きづらさを抱える人など)が出会い、お互いに学び合い表現する場を積み重ねてきました。この10年での釜ヶ崎の街の変化は著しく、元労働者らは亡くなり、釜ヶ崎の象徴的建築物であったあいりん労働福祉センターは数年後に建て替わります。釜芸(釜ヶ崎芸術大学)の今年度のメインテーマとして、釜ヶ崎の記憶と記録のアーカイブを行うと同時に、今を生きる人たちとこの街で、表現と創造と交流の場「釜ヶ崎アーツセンター構想」を構想します。通年行っている釜芸講座においても「釜ヶ崎アーツセンター構想」を意識しながら実施していきます。オンライン上にも釜ヶ崎アーツセンターを立ち上げ、構想をまとめ、センター跡地にアーツセンターを提言したいと考えています。</p>
<p>市民等寄附者に対するPR</p>	<p>「私たちが活動する釜ヶ崎は、かつて日本の高度経済成長期に日雇い労働者として汗を流した方たちやLGBT、刑務所から出た人、外国人など、多様な人たちが暮らす街です。様々な事情を抱える彼らと共に表現活動をする中で、人生の引き受け方を学び、「正直に自らを表す」という在り方によって、私たち自身の心が開いていく経験をしました。それは個人の尊厳と向き合うこと。生きづらさという言葉がよく聞かれるようになった昨今、私たちが続ける「出会いと表現の場」が、誰かにとっての今日一日を朗らかに生きる糧になればと願っています。現在も釜ヶ崎の街は変化しています。多くが亡くなるなか、ひとりひとりの記憶と存在をつなぎ、今を、そして未来を生き人たちと考え、話し合い、表現していきたいと思っています。皆さまのお力添えを何卒よろしくお願いいたします。」</p>